

2024年7月5日

報道関係各位

GMO インターネットグループ

GMO インターネットグループ、 生成 AI 活用により 2024 年上半期で約 67 万時間の業務時間を削減 ～国内パートナー（従業員）の 83.9%が生成 AI を活用～

“すべての人にインターネット”をコーポレートキャッチに、インターネットインフラ、広告、金融、暗号資産事業を展開する GMO インターネットグループ（グループ代表：熊谷 正寿）は、「AI で未来を創る No.1 企業グループへ」を掲げ、グループをあげた生成 AI の活用を進めています。

その結果、グループ全体で約 13 万 2,000 時間/月（前回調査差+約 2 万時間）の業務時間削減が実現しました。過去の調査も踏まえ、2024 年上半期で約 67 万時間削減したと推定しています。^(※1)

GMO インターネットグループは、今後もパートナー（従業員）の AI 活用状況を定期的に調査してまいります。そして、すべてのパートナーが AI を活用できる人財となり、削減した時間でよりクリエイティブな業務に専念し、AI を活用した各種プロダクトやサービスの開発を加速することで、すべての人の「笑顔」と「感動」につなげてまいります。

■ 調査概要

- 調査テーマ：「生成 AI 活用」実態調査
- 回答者数：6,312 人（有効回答 5,153 人）
- 調査対象：GMO インターネットグループの国内パートナー（正社員、派遣社員、アルバイト）
- 調査期間：2024 年 6 月 10 日（月）～6 月 14 日（金）

■ 調査サマリ

- 削減時間：
 - 生成 AI を活用するパートナー一人あたりの業務削減時間は 26.8 時間/月（前回調査差+2.1 時間）。
 - グループ全体で約 13 万 2,000 時間/月（前回調査差+約 2 万時間） 業務時間削減^{(※2)(※3)}
 - 2024 年上半期で推定約 67 万時間の業務時間削減を実現。
- 利用している LLM：
 - 約半数（47.2%）のパートナーが、複数の生成 AI モデルを使い分けている。
 - 業務において最も優れていると思う生成 AI モデルは、GPT-4 が 65.9%、Gemini 1.5 pro・Claude 3 Opus が約 5%ずつ。各 AI モデルの特性を理解し業務に応じ AI を使い分けている。
- 注目している技術：
 - 「動画生成」が最多で 50.2%、次いで「ロボット×AI」35.6%。本調査は、2024 年 6 月 18 日に発表した GMO インターネットグループの AI・ロボット事業への参入の情報公開前に実施したが、既に「ロボット×AI」について多くのパートナーが注目。
(URL：<https://www.gmo.jp/news/article/9010/>)

(※1) 2023年11月20日発表 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/8680/>

2024年4月9日発表 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/8922/>

(※2) 国内全パートナー（シフト勤務含む）の約78.3%にあたる4,942人が生成AIを活用していると仮定し算出。

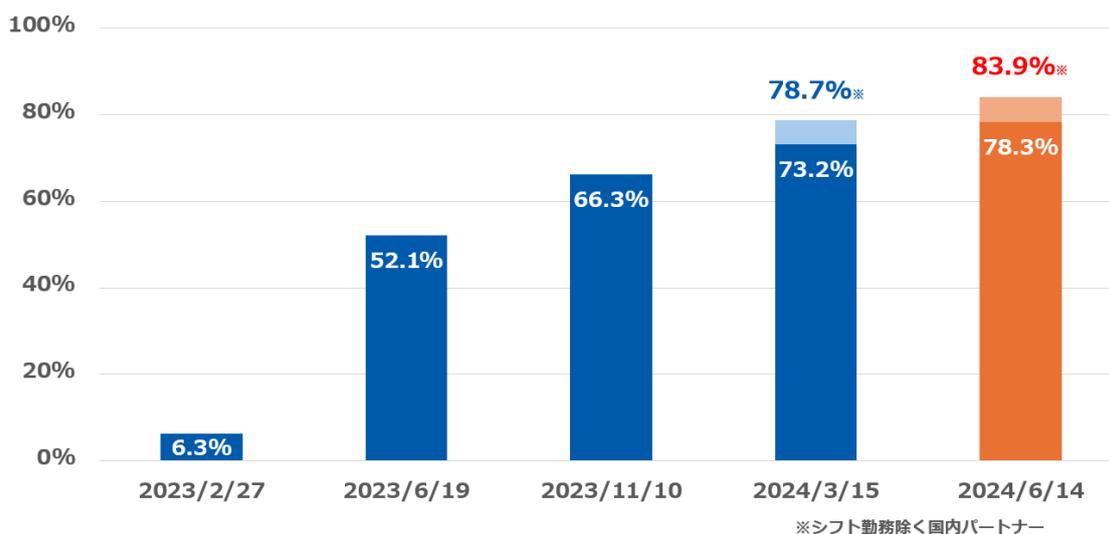
(※3) ひと月労働時間は（1日の勤務時間8時間）×（平均の営業日20日）=160時間で算出。

【GMOインターネットグループの生成AI活用調査結果】

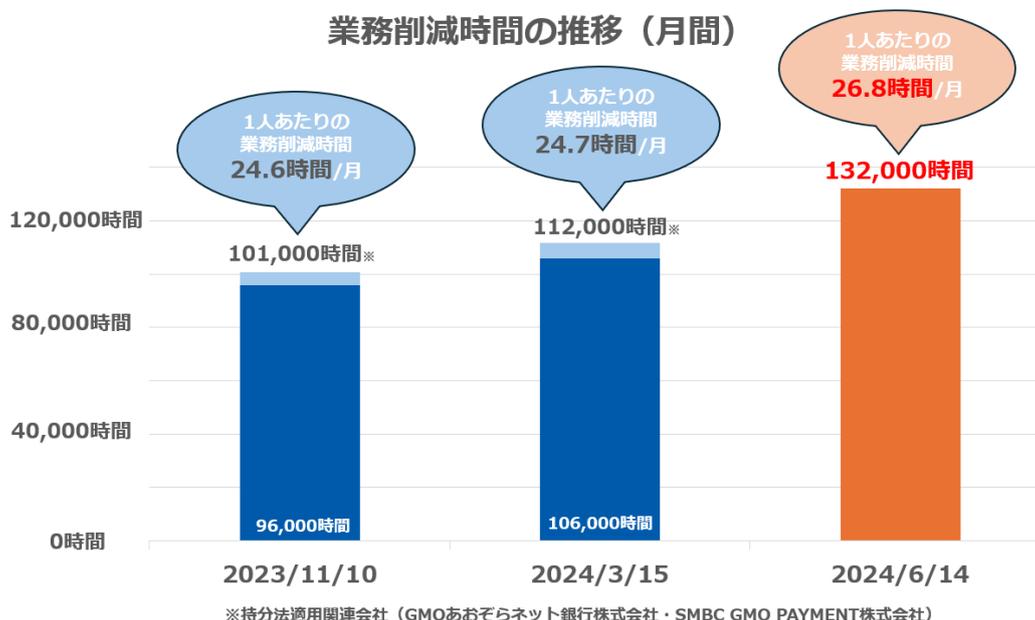
①AI活用率、一人あたりの削減時間がともに増加。リスクリング施策で後押し。

- 国内パートナー（シフト勤務除く）の83.9%が生成AIを活用（前回調査差+5.2ポイント）。
- 生成AIを活用しているパートナー一人あたりの業務削減時間は**26.8時間/月（前回調査差+2.1時間）**となり、パートナーが、次々とリリースされる最新のAIツールをキャッチアップし、一人ひとり使いこなしていることが推測できます。
- また、生成AIを活用しているパートナーの合計により、ひと月あたり**約13万2,000時間の業務時間削減を実現しました。（前回調査差+約2万時間）**削減時間数は調査するごとに増加しています。
- GMOインターネットグループでは「AI（愛）しあおうぜ！プロジェクト」として、全パートナー受講必須のAIセミナーや、2024年3月からは非エンジニア向けの3か月集中型のAI、RPAのリスクリング企画「虎の穴」を実施しています。このことから、生成AIを活用するパートナーのすそ野が広がり、業務削減時間の増加にも貢献していると考えられます。

生成AI業務活用率



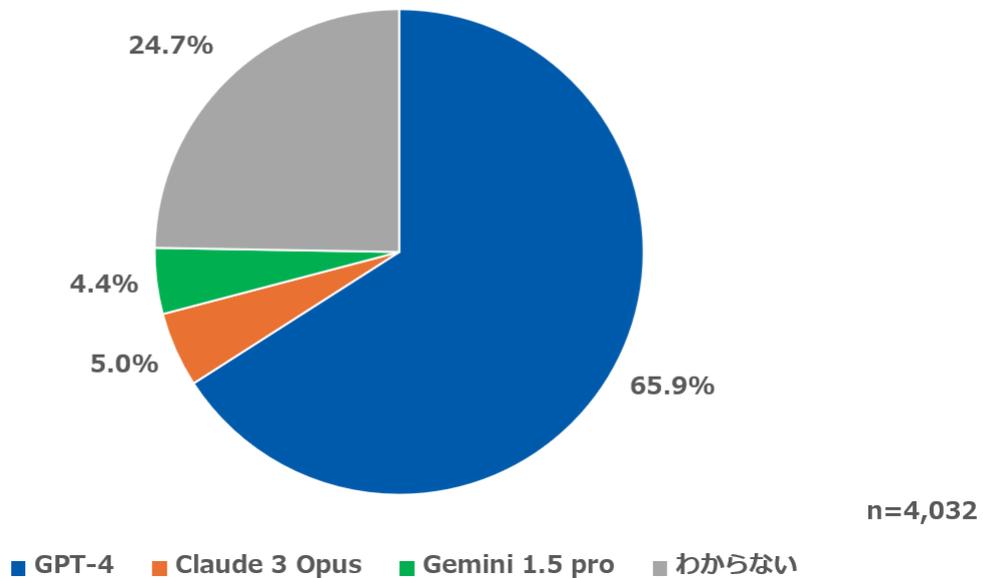
業務削減時間の推移（月間）



② 複数の LLM の特性を活かし業務に利用

- AI の業務活用を行うパートナーに対し、AI の複数利用について質問したところ、**47.2%と約半数が複数の AI を業務で使い分けしている**と回答しました。
- また、業務において最も優れていると思う LLM については、65.9%のパートナーが GPT-4 と回答。
- 一方で、Gemini 1.5 pro と Claude 3 Opus も約 5% ずつの支持を集めており、**各 AI モデルの特性を理解し、業務に応じた AI を使い分けしている**ことが推測されます。

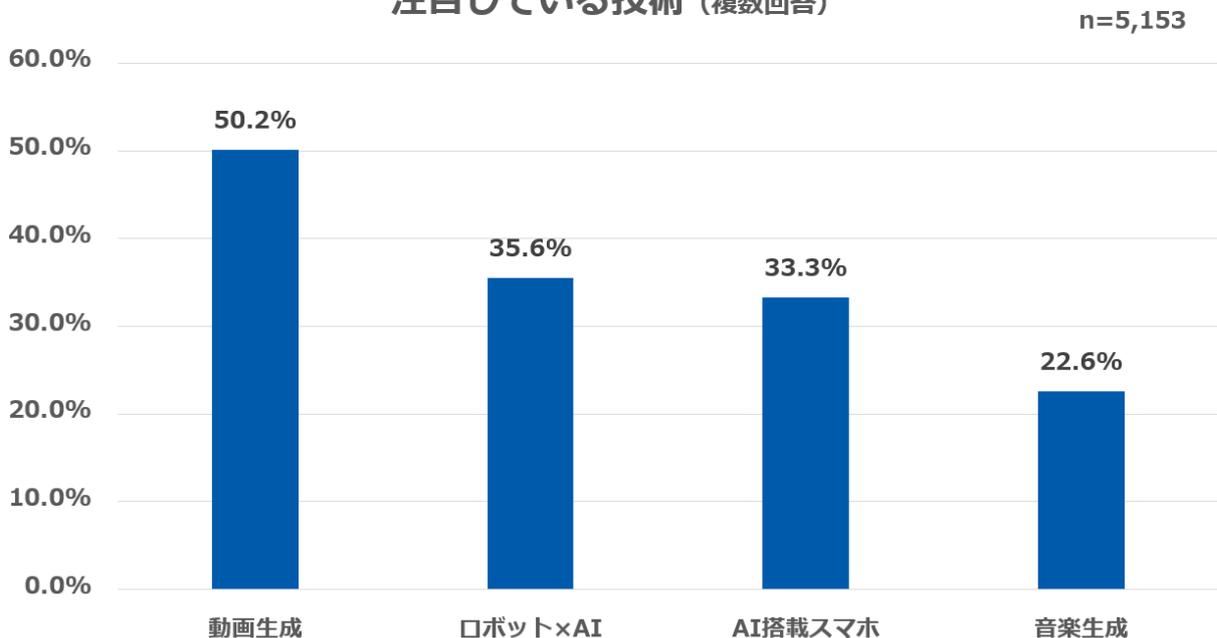
業務において最も優れていると思う LLM は？



③ 「動画生成」「ロボット×AI」「AI 搭載スマホ（エッジ AI）」に注目

- 現在注目している技術については、**「動画生成」が 50.2%と約半数**となり、**次いで「ロボット×AI」35.6%、「AI 搭載スマホ」33.3%、「音楽生成」22.6%**となった。
- 2024 年 6 月 18 日に発表した GMO インターネットグループの AI・ロボット事業への参入の情報公開前にも関わらず、多くのパートナーが「ロボット×AI」技術に注目していた。
(URL : <https://www.gmo.jp/news/article/9010/>)

注目している技術（複数回答）



【AI を活用しているパートナーの声】^(※4)

■ 2024 年 4 月～6 月まで最も成果があった業務効率化の事例について

| 用途 | 職種 | 事例 |
|-------|--------|---|
| 調査 | 営業 | 生成 AI プロンプトポータル「天秤 AI by GMO」で複数の LLM での判断を比較することで、AI の回答が正しいかを確認する時間が減った。 (「天秤 AI by GMO」 https://tenbin.ai/) |
| 調査 | エンジニア | ChatGPT を開発方法の調査に使うこと。完全な正解を得られなくても部分的にキーワードを引き出せるので調査のしやすさが上がる。 |
| 調査 | ディレクター | 他社サービスの仕様理解。相談相手がいないため学習後の AI の回答をもとにブラッシュアップした。確認時間を数時間減らせた。 |
| 開発 | ディレクター | これまでは他人に依頼していた GAS の修正や開発が、AI を活用することで自分だけでできるようになった。 |
| 翻訳・要約 | エンジニア | 英文の要約では、1 回の作業につき、15 分～30 分程度効率化できている |
| 要約 | 管理系 | 理解し難い言葉があった際、AI に分かりやすく教えてもらうことで理解度の向上になった |

■ AI を使っていて「まだ自分（人間）がやったほうが良い」と感じたことについて

| 用途 | 職種 | 事例 |
|----------------|-----------|--|
| 調査 | ディレクター | 法的な調べもの、判断。専門知識。 |
| アイデア | エンジニア | 専門分野におけるアイデア出し。 現在のビジネスの利益をさらに上げる方法・クラウドのより良い設計などについては、一般論しか返ってこないため、まだ人間が考えたほうが良いと感じた。 |
| デザイン | クリエイター | 過去の AB テスト結果を踏まえた具体的なデザイン。 AI に事前学習をさせる時間でデザインが終わるため。 AI は 0→60 は得意だが 70→75 は苦手なイメージ。 |
| EQ (心の知能指数) | カスタマーサポート | 人の気持ちを「汲み取る」ことは、まだ AI より人間が行ったほうが良い。 特にユーザーからの問い合わせ内容など、ハイコンテキストな文章・会話内容から「その先にある希望」を汲み取るのは人間のほうが優れている。 |

(※4) 生成 AI の活用においては、グループ各社で利用規定を策定・順守した上で、非開示情報や個人情報の入力、著作権侵害等に配慮して業務を実施しております。

【AI しあおうぜ！プロジェクトリーダー 李 奨培（り じゃんべ）コメント】

私たちの AI 活用推進プロジェクトも、開始から 1 年以上が経過し、業務効率化の“勝ち筋”が見えてきました。

そして、さらに突き抜けたアウトプットを実現するには、目的に応じた最適な AI モデルを利用することが必須です。

これらに対応できる社内ツールを我々は開発・提供し、目標の達成に向けてまい進いたします。



【GMO インターネットグループについて】

GMO インターネットグループは、ドメインからセキュリティ、決済までビジネスの基盤となるサービスをご提供するインターネットインフラ事業を軸に、インターネット広告・メディア事業、インターネット金融事業、暗号資産事業を展開する総合インターネットグループです。

また、「AI で未来を創る No. 1 企業グループへ」を掲げ、グループ全パートナーを挙げて生成 AI を活用することで、① 時間とコストの節約、② 既存サービスの質向上、③ AI 産業への新サービス提供を進めています。^(※5) (参考 URL 「AI で未来を創る No.1 企業グループ」実現への取り組み

<https://www.gmo.jp/ai-history/>)

お客様に喜ばれるサービスを迅速かつ低価格で提供するために、サービスは機器の選定から設置、構築、開発、運用までを内製化することを基本方針としています。そのため、グループ 110 社に在籍する約 7,400 名のパートナーのうち、IT のモノづくりを担う開発者（エンジニア・クリエイター）が 49.5%を占めています。^(※6)

^(※5) GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例については別紙に記載をしております。

^(※6) 2024 年 3 月末時点

以上

【報道関係お問い合わせ先】

●GMO インターネットグループ株式会社

グループ広報部 PR チーム 山崎

TEL : 03-5456-2695

お問い合わせフォーム : <https://www.gmo.jp/contact/press-inquiries/>

【GMO インターネットグループ株式会社】(URL : <https://www.gmo.jp/>)

| | | |
|------|---|-------------------|
| 会社名 | GMO インターネットグループ株式会社 (東証プライム市場 証券コード : 9449) | |
| 所在地 | 東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー | |
| 代表者 | 代表取締役グループ代表 熊谷 正寿 | |
| 事業内容 | ■インターネットインフラ事業 | ■インターネット広告・メディア事業 |
| | ■インターネット金融事業 | ■暗号資産事業 |
| 資本金 | 50 億円 | |

Copyright (C) 2024 GMO Internet Group, Inc. All Rights Reserved.

【別紙：GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例】

■①時間とコストの節約

1. 2023年4月より賞金総額1,000万円の社内公募コンテスト「AI（愛）しあおうぜ！ChatGPT 業務活用コンテスト」を実施しました。AIに関する取り組みや新サービスへつながる作品が集まり、多くがサービス提供・実装されました。
2. AIに関する最新動向や最新ツールの理解を深める、専門家による「GMO AI セミナー」を定期開催しています。
3. AIに関するグループ内のポータルサイト「GMO Genius」を立ち上げ、プロンプトやGPTsの共有、その他情報共有等を行い、グループ内の「AI ナレッジ」の共有を図っています。
4. 非エンジニアを対象としたリスキリング施策として、社内の有識者が講師となり、3か月間の短期AI人材育成プログラム「虎の穴」を実施しています。
5. 全パートナー受験必須のAIテスト「GMO AI パスポート」を実施しています。また、中途採用における選考でAIに関する課題を実施しています。
6. Slack上で使える「ChatGPT」等のアプリを提供し、情報が学習されないクローズドな環境で、有料ツールを利用できる環境を提供しています。

■②既存サービスの質向上

AIを活用し既存サービスへの機能追加による質の向上を測っています。生成AIによる文章や画像の生成等により、ドメイン、ホスティング、EC、広告、メディア、セキュリティ等幅広い領域でお客様にこれまで以上に利便性の高いサービスをご提供しています。

詳しくはこちら (<https://www.gmo.jp/ai-history/>)

■③AI 産業への新サービス提供

AI 産業を盛り上げるべく AI スタートアップの支援を進めています。

1. 2023年5月24日に、ハンズオン型CVC「GMO Web3 株式会社」を、「GMO AI & Web3 株式会社」へと社名変更しAIスタートアップ支援を拡大しています。すでに、有望なAIスタートアップへの支援を実施しています。
2. NVIDIA社のGPU「NVIDIA H100 Tensor コア GPU」「NVIDIA L4 Tensor コア GPU」を搭載したAI開発者向けのGPUホスティングサービスを開始しました。
(<https://www.gmo.jp/news/article/8677/>)
3. 2023年12月にはNVIDIA社とパートナー契約を締結し、NVIDIAのパートナープログラムである「NVIDIA Partner Network」に参画しました。NVIDIAとの協業を加速させ100億円規模のGPUサーバーを取得することとしています。
(https://ir.gmo.jp/pdf/irlibrary/gmo_disclose_info20240213_06.pdf)
4. AI専門家とともに「GMO 教えて AI 株式会社」を設立し、生成AIプロンプトポータルサイト「教えてAI」を開始しました。(<https://oshiete.ai/>)
5. 2024年6月18日（火）に、GMO AI&ロボティクス商事株式会社（通称GMO AIR）を設立し、AIとロボット・ドローンの導入・活用支援を軸とした新たな事業を開始しました。
(<https://www.gmo.jp/news/article/9010/>)